墓石が建っている。滝部落の人々は、この墓石を九の坊さまと呼んで彼岸、お盆には、部落の人々が焼香やぼたもちを上げて供養している。

当主の鈴木昭一氏宅は、たびたびの村の大火にも災禍にあわず、旅僧や旅人をとめたという部屋が現在も残っている。

（話者　小針　平）

桜堂、行認塚の由来

《志　茂》

今より三百年前の正保年間の頃、一本の山桜の老木があり、当時の人が、その桜の木の側に、二間に三間の御堂を建て、旅僧の宿となしていた。

その後、時代が遷り変り、村の人も誰も見守る人もなく、桜の木は枯れ、御堂も立腐れとなって絶えてしまった。一説によると、その昔、僧行墓の弟子、行認が住んでいた所ともいわれ、行認壇、行認塚ともいわれる。

いまは、桜堂、行認塚という地名が残っているだけである。

（話者　小林喜義）

桜堂行認塚